



# 日本植物分類学会 ニュースレター

\*\*\*\*\*

No. 51

Nov. 2013

## 今号のトピックス

第 13 回大会 (3/20-23 熊本大学) の参加・発表受付開始！  
→ 7 ページ

2013 年度講演会が 12/21(土) に大阪学院大学で開催されます。  
→ 5 ページ

2014 年度分の会費納入は 12 月末が期限です！  
→ 11 ページ



## 目 次

### 諸報告

2013 年度野外研修会実施報告 .....	2
2013 年度日本植物分類学会野外研修会をお世話して .....	4

### お知らせ

2013 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ .....	5
日本植物分類学会第 13 回大会および 2014 年度総会のご案内 .....	7
『国際藻類・菌類・植物命名規約 (メルボルン規約) 2011 [日本語版]』について .....	12
日本分類学会連合第 13 回シンポジウムのお知らせ .....	12

### 寄稿

学名のラテン語 (14) .....	13
--------------------	----

### 植物研究会・同好会紹介

「変形菌研究会」 .....	15
----------------	----

会員消息 .....	16
------------	----



## 諸報告

### 2013 年度野外研修会実施報告

南谷 忠志 (宮崎県)

2013 年度日本植物分類学会野外研修会は、8月31日から9月2日の2泊3日で、広島県中国山地のほぼ西端部に位置する深入山・三段峡(山県郡安芸太田町)および臥竜山・八幡湿原(山県郡北広島町)において、宿所「いこいの村ひろしま」を拠点に開催された。参加者は20名(地元参加8名を含む)であった。

1日目(8月31日:土):深入山(観察地:820~1,100m)

参加会員は各交通機関を使い、14:00に深入山中腹にある「いこいの村ひろしま」に集合。開会行事を済ませ、早速深入山へ。深入山は「たたら製鉄」のために、ブナの原生林が伐採され、その跡地が牛馬の放牧によって二次草原となった山。近年、放牧がなくミズナラの疎林状となり、遷移進行を防ぐために、春季に火入れをしているとのこと。宿舎脇の登山口から草原が広がっている。低木状に散生するサイコクキツネナギやマルバハギの中にワレモコウ・ウメバチソウ・キキョウ・オケラ・モリアザミ・サイヨウシャジン(皆さんの合意で判断)・マモコナ・ホソバシロソウやゴマナが目立った。小雨降る中、宿舎に早々に戻る。夕食前に講演会がもたれ、広島県の改訂版RDB作成に携わった吉野由紀夫氏から「広島県の新しいRDBについて」、北広島町立「高原の自然館」勤務の白川勝信氏から明日の探訪地となっている「八幡高原の自然」について紹介があった。

2日目(9月1日:日):臥竜山(1,020~1,223m)及び八幡湿原(ほぼ760m前後)

雨降る中での観察となる。貸切バスで臥竜山へ移動。1,100mのブナ林入り口にて下車。早速大型のアザミ類2種が迎えた。アザミ属は日本各地で多様に分化し150種あるとされるだけに皆さん「???」。一つはイズモアザミらしいがよく分からないまま。大粒の雨煙の中をブナ林に入る。このブナ林は「クロモジブナ群集」に属し、高木層にブナ・ミズナラ・アシウスギ・トチノキ・サワグルミなどが、亜高木層から低木層にはコハウチワカエデ・ハウチワカエデ・アサノハカエデ・フウリンウメドキ・イヌツゲ・ナナカマド・ウワミズザクラ・コバノトネリコ・エゾユズリハ・ツノハシバミ・モミジウリノキ(九州阿蘇以北が分布の中心であり、広島まで北上しているのには驚いた)・チャボガヤ・ハイイヌガヤ・オオカメノキ・オオミヤマガマズミ・ヤブデマリ・ハクウンボク・タンナサワフタギ・サワフタギ・コアジサイ・ハスノハイチゴ・ミヤマイボタ・ミヤマシキミ・ミアケザサ(山脇氏判断)が、草本層にはユキザサ・アケボノシュスラン・ホウチャクソウ・シオデ・エンレイソウ・ミヤマカンスゲ・オクノカンスゲ・カンスゲ・アキチョウジ・サンインヒキオコシ・オククルマムグラ・ヤブレガサ・モミジガサ・トチバニンジン・マルバフユイチゴ・アオベンケイ・ミヤマカタバミ・ミヤマタニソバ・ニシミゾソバ(南谷判断:まだ閉鎖花を着けた根系が未発達だが、大阪自然史博に臥竜山の標本があり間違いなからう:芹沢・2008.シデコブシ1:3-26)・シラネウラボ・シノブカグマ・ヤマソテツ・ヤマイヌウラボなどがあつた。下山後は登山道を1,020mまで下り、道路沿いの林縁植生を観察。ニシノヤマタイミンガサ・ヤマミズ・キバナアキギリ・アカショウマ・サワオトギリ・イヌトウバナ・コタチツボスミレ・キクバヤマボクチ・ヒヨドリバナ・ツチアケビなどがあつた。頂上付近には出て来なかつたダイ



八幡高原の尾崎沼にて参加者一同(撮影:埴田宏)

センミツバツツジが林縁に目立った。バスが迎えに来て、「高原の自然館」に向かい昼食。「高原の自然館」の展示に、年輪と歴史を重ねたブナの巨木の輪切（各地の博物館等施設にあり）の年代説明 1975 年に「広島東洋カープ初優勝」とあり、地方らしい展示手法が光っていた。

昼食後はやや小降りになった雨の中、新川溜池（尾崎谷、通称八幡湿原）に向かう。このあたり一帯の森林は、ブナ林域の二次林で「クリ—ミズナラ群集」に属する林分にアカマツが優占する林分やカラマツの植林もある。新川溜池の周辺はゆるやかな丘陵地形で、その丘陵の端は湿原に接しており、林縁部は「カンボク—ズミ群落」や「ウメドキ—ミヤコイバラ群集」で、そこにはビッチュウフウロ・コバナノワレモコウ・ツリフネソウ・エゾシロネや大きな頭花のマアザミ（頭花は大型で俯きに開く。九州のはサツママアザミで頭花は小さく上向きに咲く）の花が迎えていた。アブラガヤ（シデアブラ



臥竜山のブナ林

ガヤ型)・ヌマガヤ・ムカゴニンジン・サトメシダ等の草本にカンボク・ズミ・アラゲナツハゼ・ウワミズザクラ・サクラバハンノキ・レンゲツツジ等の樹木が混生。「マアザミ—ヌマガヤ群集」の湿地には、オオミズゴケ・マアザミ・ヌマガヤ・シラヒゲソウ・アカバナ・アズマナルコ・サンカクホタルイ（織田氏確認）・サイヨウシャジン・オニスゲ・サワギキョウ・ミヤコアザミ・エゾシロネ・ヒメシロネ・コシロネ・ミズチドリ・カキラン・コバノギボウシ・タムラソウ・クサレダマやヤマドリゼンマイなどが見られた。新川溜池に水中にはコウホネ・ジュンサイ・ヒツジグサが遠望され、岸边にはフトイ・エゾミソハギ・ミズオトギリがあった。池の周囲の「ミズナラ—クリ群集」の森林には、ミズナラ・クリ・アカマツ・カラマツ（植栽）などの高木層、コシアブラ・ハネミノイヌエンジュ・ナナカマド・オオウラジロノキなどの亜高木層、低木層はコバノガマズミ・ミヤマガマズミ・オトコヨウゾメ・オオカメノキ・アラゲミツバツツジ（南谷注：コバノミツバツツジは京都～兵庫県を中心に分布し広島県のはすべてアラゲミツバツツジ）・ダイセンミツバツツジや中国地方希産のミヤマウメドキも見られた。帰路の途中、「牧野富太郎記念碑」（牧野富太郎博士が 1937 年に臥竜山に登頂）に立ち寄り、近くのハンノキ林でヒメナミキ・ビッチュウフウロ・サワギキョウやヒメシダを観察した。ハンノキに混生するサクラバハンノキは特記すべきであろう。

宿舎では、今回の世話役をされた関太郎先生の「Great Smoky Mountains の植物」の講演があり、東アジアと東アメリカには共通隔離分布が見られ、トチバニンジン属、ヒトツバタゴ属、リュウボタン、ツルアリドオン、エンレイソウ属等の興味ある画像での紹介があった。

3 日目（9 月 2 日：月）：三段峡（600～650m：餅の木～三段滝）

三段峡は古くから開けた八幡盆地と太田川の支流柴木川に沿う戸河内集落に挟まれた峡谷で、一部の猟師や仙人にしか知られていなかった秘境であった。熊南峯は内務省の名勝指定調査委員国府犀東を案内し、「三段峡」と命名し、大正 14 年には国の名勝に指定された。今回の観察コースは 600m 前後で落葉広葉樹林帯に属する「チャボガヤ—イヌブナ群集」、岩角地には「クロソヨゴ—ツガ群集」、渓谷沿い平坦地には「ジウモンジシダ—トチノキ群集」があり、溪流沿いには「キシツツジ群集」が見られた。高木層にイヌブナ・ケヤキ・ミズナラ・トチノキ・サワグルミが、亜高木層から低木層にはアラゲミツバツツジ・ダイセンミツバツツジ・ハクウンボク・チャボガヤ・ハイヌガヤ・モミジウリノキ・ウリノキ・ヤマアジサイ・コアジサイ・クロモジ・ミヤマクロモジ・クロタキカズラ・クロソヨゴ・ヤマグルマ・タカノツメ・ミヤマシグレ・ホツツジ・バイカツツジ・ウスギヨウラク・ベニドウダン・サワダツ・ムラサキマユミ等が見られた。草本層にはオオイワカガミ・ミヤジマ

ママコナ・サンインヒキオコシ・ゲイホクアザミ・ウチワダイモンジソウ・ナメラダイモンジソウ・ウワバミソウ・コチャルメルソウ・キクバヤマボクチ・ナガバハエドクソウ・セリバオウレン・オクノカンスゲ・ミヤマカンスゲ・ヤマソテツ・ヤマイタチシダがあり、溪流沿いにはケイリュウタチツボスミレやヤシャゼンマイも見られた。途中、個体数は少ないがウツギ類の疑問品や希産種のオモゴウテンナンショウもあった。一同満足して宿舎に戻り、昼食。お別れ会を済ませ、各自、帰路に着いた。

今回の研修会は周到な計画がなされ、草原・ブナ林・湿原・渓谷の生態観察が組まれ、中国山地の西端のフロラを総合的に学習する機会を与えていただいた。この研修会で中国山地の西端にはチャボガヤ、ハイヌガヤ、オオイワカガミ、サンインヒキオコシ、エゾズリハ、ムラサキマユミ等の日本海要素とソハヤキ要素のハスノハイチゴ・ウワバミソウやシコクスミレ・キレンゲショウマ（隣接の島根県境山地）が混生しており、想像していた以上に多様性に富んだ地域であることを認識させられた。それにしてもサンショウソウ類(*Pellionia*)やネコノメソウ類(*Chrysosplenium*)が全く出現しなかったのは不思議であった。

この会の開催にあたり大変お世話になった関先生を中心にした地元スタッフの方々に深く感謝いたします。

注) 南谷はこの大会の前の27-28日は広島県の東部を回り、気になっていた広島県分布のヒユウガセンキウ(2ヶ所)がタイプ地の宮崎県のもので全く同じであったこと、ツクシウツギやマルバコウツギが広島県にもあるらしいとの情報があつたが現地を確認したところ、それらは日本には他にない別物であったことを触れておきたい。

## 2013年度日本植物分類学会野外研修会をお世話して

関太郎(広島県)

野外研修会の詳細は南谷氏の報告のとおりであるが、地元でお世話した者の代表として感想を述べたい。私は、この野外研修会に初めて参加したが、各地方からそれぞれ活躍しているエキスパートが参加され、たいへんレベルの高い研修会であった。地元から初めて参加した人たちも大いに勉強になったことと思う。例えば、アザミ属、ツリガネニンジン類、ツツジ属、ミゾソバ類、カヤツリグサ科、ササ属など、難解な種群について、実物を前にして、生育環境とともに議論出来たことは、文献や標本からは得られない価値の高い「情報」であった。ここに、各地方から参加された方々に深く感謝申し上げたい。希望をいえば、もっと若い人たち：学生・院生・教官の方々に参加して頂きたかった。

今回、野外研修会を引き受けるに際し、昨年妙高山の例から、25~30名位の参加者があると予想して、マイクロバスとホテルを早めに予約し、経費を見積もった。ところが、参加申し込みが少なく、また自家用車の方も多く、バスの経費が割高になった。その上、キャンセルも続出し、会の経営が非常に苦しくなった。地元の非会員で手伝って下さった方々への謝礼は、広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所と有志の方の「ご芳志」でまかなった。今後、こういう事態も起こりうると思われるので、日本植物分類学会として野外研修会への補助金をぜひ配慮して頂きたい。

地元として、他県からの参加者に植物名を紹介する際に、困ったことがあつた。それは、正式

に新種発表されていない「種」が一人歩きしていることである。一例を挙げると（広島県にはない種であるが）、愛知県で見つかったトヨボタニソバは、正式な発表の前からネットで公開され、愛知県のRDBには印刷された。これは絶滅を防ぐためには、正式な発表が待てなかったのかも知れないが、それはかえって不正な採取を促進しかねない。分類学の基本に立ち返り、正式な新種発表があるまでは、そっとしておくのがマナーであろう。

この度、2013年度日本植物分類学会野外研修会を実施するにあたっては、北広島町立高原の自然館の白川勝信氏には採集許可の申請や八幡高原紹介の講演でたいへんお世話になった。あつく御礼申し上げたい。

2014年度野外研修会は、東北大学の米倉浩司氏にお世話にいただき青森県八甲田山周辺に決定しました。7月開催予定で、詳細は次号でご案内いたします。いよいよ初の青森県、初夏の八甲田は花盛りです。どうぞお楽しみに。（野外研修会担当委員 西野 貴子）

## お知らせ

### 2013年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

2013年度の日本植物分類学会講演会を次のとおり開催します。なお、会場は大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただきます。是非ご参加下さい。

【日時】2013年12月21日（土）10:00～17:00

【講演会場】大阪学院大学 2号館地下1階2号教室（02-B1-02教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号（電話：06-6381-8434）

#### 【プログラム】

10:00-10:05 ご挨拶 角野 康郎（学会長）

10:05-11:05 加藤 雅啓「着生シダ植物の進化」

11:15-12:15 西野 貴子「サワシロギク *Aster rugulosus* における湿地と蛇紋岩地帯への生態的適応」

(12:15-13:15 昼食)

13:15-14:15 井鷲 裕司「全個体ジェノタイプングによる絶滅危惧植物の保全」

14:25-15:25 門田 裕一「日本産アザミ属の分類学的研究—解決できた問題、できなかった問題—」

15:40-16:40 崎尾 均「佐渡島の森林植生—気候・地質・人為の影響—」

16:45-16:50 ご挨拶 林 一彦（大阪学院大学）

#### 【その他】

参加費としてお茶代（100円）を徴収いたします。また講演会終了後、大阪学院大学職員食堂（17号1階）で懇親会を行います（当日申し込み、学生割引もあります）。

#### 【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅あるいは阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩5分。

[http://www.osaka-gu.ac.jp/p\\_student/index.html](http://www.osaka-gu.ac.jp/p_student/index.html) の「交通アクセス」と「キャンパスマップ」を閲覧下さい。

【講演内容（執筆は各演者）】

「着生シダ植物の進化」

加藤 雅啓（国立科学博物館名誉研究員）

植物は進化の結果さまざまな所へ広がった。その1つ、着生植物は木の上に生える。地生植物の根が地中を潜るのに対して、着生植物の根は樹皮にまとわりつき、着地することはない。類似のつる植物は地上から樹木をよじ登り、半着生植物は樹上と地上の両方で前後して生きる。着生のシダ植物はどうやって進化したのか、研究の成果を紹介する。

「サワシロギク *Aster rugulosus* における湿地と蛇紋岩地帯への生態的適応」

西野 貴子（大阪府立大学大学院理学系研究科）

サワシロギクは低層・中間湿地に生育する地味な野菊である。関東以西の太平洋側ではありふれていたこの湿地植物も、生育地消失により今や激減している。この変哲もない野菊には蛇紋岩適応した変種シブカワシロギクが知られており、単純な疑問点から生態的特性の比較を行った。ただひたすら「数える」「測る」という、湿地らしい“泥臭い”手法によって得られたデータ、しかしそこから見えてきた生活史戦略の劇的な変化をご紹介します。

「全個体ジェノタイピングによる絶滅危惧植物の保全」

井鷲 裕司（京都大学大学院農学研究科）

日本に生育する維管束植物の約4分の1が絶滅が危惧される状態にある。その中でも特に危機的な絶滅危惧I類にランクされている植物の多くは、数十あるいは数百の個体が野生状態で生育しているに過ぎない。このような植物種を対象に、野生で生育している全個体の位置と遺伝子型を解析することで、保全上、どのような有益な情報が得られるか、具体例を紹介しながら考察する。

「日本産アザミ属の分類学的研究—解決できた問題、できなかった問題—」

門田 裕一（国立科学博物館）

私は、野外調査の成果を中心に据えて、日本産のアザミ属（キク科）に関する分類学的研究を継続して行い、本属のモノグラフ完成を目指している。ここでは、北海道、本州、四国、九州のそれぞれの地域において、新たに認識された種を紹介する。日本列島にはまだまだ未記載の分類群が残されているようだ。また、併せて、ヒマラヤ地域の種についての問題点にも予備的に触れることとしたい。

「佐渡島の森林植生—気候・地質・人為の影響—」

崎尾 均（新潟大学農学部）

日本海に浮かぶ佐渡島の森林には暖温帯林、冷温帯林、それに亜寒帯林を構成する樹種が分布している。また、半自然草地、天然林、二次林および人工林など異なるタイプの生態系が見られる。このように多様な森林は佐渡島独特の気象環境、地質それに人為的な影響によって形成されてきた。これらの森林植生を、佐渡を彩る美しい花々ともに紹介する。

## 日本植物分類学会第13回大会および2014年度総会のご案内

第13回大会会長 高宮 正之

大会ロゴマーク(イツキカナワラビ)

日本植物分類学会会員の皆様

日本植物分類学会第13回大会及び2014年度総会を、2014年3月20日から23日の日程で、熊本大学で開催いたします。皆様のご参加を心からお待ちしております。



[本会場] 熊本大学黒髪南キャンパス 工学部2号館  
(熊本市中央区黒髪 2-39-1)

口頭発表・ポスター発表・総会・授賞式・授賞記念講演・公開シンポジウム  
詳しいアクセスは下記リンクをご参照ください。  
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/access>

[各種委員会会場] 熊本大学黒髪北キャンパス(熊本市中央区黒髪 2-40-1)  
くすのき会館レセプションルーム(編集委員会, 評議員会)

[日程] 2014年3月20日(木)～3月23日(日)

3月20日(木) 午後 編集委員会, 評議員会 (於: 熊本大学黒髪北キャンパス)

3月21日(金) 午前 口頭発表(大会発表賞エントリー者)  
午後 口頭発表・ポスターセッション

3月22日(土) 午前 口頭発表・ポスターセッション  
午後 総会, 授賞式, 授賞記念講演  
夜 懇親会

(場所: フェリシア Felicia: 熊本市中央区水道町 1-19 ヴィラージュビル 2F)

3月23日(日) 午前 口頭発表  
午後 公開シンポジウム:  
阿蘇の草原植物に関する講演会を予定しています。

[第13回大会ホームページ] <http://www.e-jsps.com/jsps13/>  
大会準備の進捗状況やプログラムなど, 情報を随時アップロードします。

[お問い合わせ先]

大会実行委員長: 副島 顕子

連絡先: 日本植物分類学会第13回大会準備委員会

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 熊本大学大学院自然科学研究科 副島 顕子  
Tel & Fax: 096-342-3448

E-mail: [bunrui@sci.kumamoto-u.ac.jp](mailto:bunrui@sci.kumamoto-u.ac.jp) (大会専用)

(お問い合わせの場合には, できるだけ専用電子メールをお使いください)

[発表の要領]

- 口頭発表(一般講演)

発表時間は, 講演12分, 質疑応答3分の計15分です。口頭発表の際には液晶プロジェ

クターを使用しますが、発表用パソコンは各自ご用意ください。Apple 製品等、特殊な接続ケーブルが必要な場合は、各自ご持参ください。

スライドの作成に当たっては、「色盲の人にもわかるバリアフリープレゼンテーション法」のサイト <http://www.nig.ac.jp/color> をぜひご一読ください。

#### ●ポスター

ポスター用ボードのサイズは、横 120cm × 縦 180cm です。貼付用テープ等は大会準備委員会で用意いたします。21 日 13 時までには貼り付けを終えてください。会場の都合上、23 日 13 時までにはポスターの撤去をお願いします。

#### 〔発表・参加申込方法〕

大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずご参加いただけますが、発表者のうち演者（口頭およびポスターで実際に発表する方）は、特にご依頼した場合を除き会員に限ります。非会員の講演者は、発表までに日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

第 13 回大会 HP (<http://www.e-jsps.com/jsps13/>) から発表・参加申込書へリンクが張られていますので、用紙をダウンロードして必要事項を記入または選択の上、ファイル名を参加者本人のフルネームとしてください。記入した発表・参加申込書は、件名を「学会申込」としたメールに添付して、[sanka2014kuma@e-jsps.com](mailto:sanka2014kuma@e-jsps.com) 宛に送信してください。

送信してから 3 日経っても（土日・祝日を除く）大会準備委員会から受信の返事がない場合は、メールの件名を「学会申込再送信（発表者氏名）」に変更した上で、同じメールを送信してください。電子メールを利用できない方は、本ニューズレター案内の 11 ページに掲載されている「発表・参加申込書」に必要事項を記入の上、大会準備委員会宛に郵送でお送り下さい。その際には、締め切り日にご注意ください。発表・参加申込のファクスによる送付は受け付けません。

#### 〔大会発表賞へのエントリー〕

大会発表賞（口頭発表賞またはポスター発表賞）にエントリーされる方は、発表・参加申込書「8. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー」の項目で、「(1) する」を選択してください。なお、大会発表賞へのエントリー資格のある方は、日本植物分類学会の会員で、パーマナント・ポストに就いていない研究者（年齢制限はありません）で、筆頭発表者かつ演者である方本人です。

#### 〔発表要旨〕

発表要旨の原稿を以下の書式で作成し、MS（マイクロソフト）Word 2007(Windows) または MS Word 2008(Mac) で読み込み可能な形式で保存して下さい。大会ホームページに雛形があります。

発表題目、1 行空白、発表者氏名（かっこ内に所属）、1 行空白、要旨本文の順に記入し、実際に発表する演者の右肩に「\*（半角）」を入れてください。1 行の文字数は全角で 41 字、発表題目を含めて 22 行以内にしてください。発表要旨に図表は使用できません。パソコンの機種に依存する特殊文字は、フォントの文字化けなどをおこすので使えません。原稿のファイル名は、発表代表者のフルネームとしてください。原稿ファイルは、件名を「発表要旨（発表代表者氏名）」とした電子メールに添付して、[youshi2014kuma@e-jsps.com](mailto:youshi2014kuma@e-jsps.com)（メールアドレスが参加・発表申込と異なりますのでご注意ください）宛に送信してください。あるいはファイルの入った CD-R を下記住所まで郵送してください。

送信してから 3 日経っても（土日・祝日を除く）大会準備委員会から受信の返事がない場合は、メールの件名を「発表要旨再送信（発表代表者氏名）」と変更した上で、同じメールを送信して

ください。

なお、印刷の都合で体裁を変更する場合がありますのでご了承ください。MS Word を使って要旨原稿ファイルを作成することが困難な発表者の方がおられましたら、大会準備委員会までご連絡ください。要旨の作成方法をご相談させていただきます。要旨のファクスによる送付は受け付けません。

[大会参加・発表申込の送付先・締め切り 担当 副島 顕子]

送付先：〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 Tel: 096-342-3448

熊本大学大学院自然科学研究科 副島 顕子

E-mail: sanka2014kuma@e-jsps.com

発表者：発表・参加申込／大会・懇親会参加費，弁当代等振込 1月24日（金）必着

発表者以外：参加申込／大会・懇親会参加費，弁当代等振込 2月21日（金）必着

1月25日を過ぎた振込は、大会・懇親会参加費が増額されますので、なるべくお早めにお申込ください。また2月22日以降は、当日参加をご利用ください。

[要旨原稿の送付先・締め切り 担当 副島 顕子]

送付先：同上

E-mail: youshi2014kuma@e-jsps.com (参加・発表申込先とは異なります)

E-mail, CD-R 郵送 共に2月7日（金）必着。

[参加費送金先]

郵便振替口座番号：01700-0-126839

口座名義：日本植物分類学会第13回大会準備委員会

送金には同封（または郵便局備え付け）の振込用紙を使用し、必ず振込金額の内訳（大会参加費，懇親会参加費，弁当代等）を通信欄に記入してください。また振込者と参加者は同一にしてください。参加申込の際に、振込の日付と振込郵便局名が必要になりますので、必ず参加申込前に振込を終えてください。振込手数料の80円はご自身でご負担ください。

[ネットワーク]

大会会場内では無線 LAN が使用できます。大会期間のみ有効なネットワークを利用するための ID とパスワードを準備します。希望者は発表・参加申込書「13. 会場でのネットワーク利用」の項目で、「(1) 希望する」を選択してください。学会当日に受付で ID と PW をお渡しします。ただし、ID 数が十分でない可能性があること、管理上氏名等の必要事項を記入していただくことをご了承ください。

[懇親会]

フェリシア Felicia（熊本市中央区水道町 1-19 ヴィラージュビル 2F）で行います。大会会場からバスで約 15 分の所にあります。なお、フェリシアのご厚意により、酒類の持ち込みは無料です。各地の日本酒等、皆様からの差し入れを歓迎いたします。

[宿泊施設]

宿泊に関しては各自でご予約ください。特に交通センター（熊本市中央区桜町）周辺をお薦めします。交通センターは繁華街の中心部に近く、JR 熊本駅から路面電車で約 10 分、阿蘇くまもと空港からバスで約 50 分かかりますが、熊本の交通拠点となっており、会場へのアクセスも便利です。

## [託児について]

本大会では託児室の開設は行いません。

## [大会会場へのアクセス]

会場である熊本大学黒髪南キャンパスへの公共交通機関は以下の通りです。大学構内への自家用車の乗り入れはできませんのでご注意ください。

- ・交通センターから：産交バスもしくは電鉄バスの「楠団地」「武蔵ヶ丘」または「竜田口駅」行き（子飼・熊本大学前経由）に乗り、「熊本大学前」で下車。約 15 分。交通センター近辺にある「通町筋」や「水道町」などのバス停からも同様。
- ・JR 熊本駅から：JR 西口（新幹線口）ではなく、東口（白川口）のバス停から、産交バスもしくは電鉄バスの「楠団地」「武蔵ヶ丘」または「竜田口駅」行き（子飼・熊本大学前経由）に乗り、「熊本大学前」下車。約 25 分。直通バスの本数が少ないので、「通町筋」または「水道町」で乗り換えてもよい。
- ・阿蘇くまもと空港から：熊本市内行きの空港リムジンバスに乗り、「交通センター」もしくは「通町筋」で産交バスもしくは電鉄バスに乗り換えて「熊本大学前」下車。空港から交通センターまでは場合によっては 1 時間以上かかりますので、余裕を持ってお越しください。

詳細は下記リンクをご参照ください。

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjohou/access>

## [参加費]

大会参加費（発表要旨集 1 部代金を含む）：

1月24日までの振込	一般 4,000 円 学生 2,000 円
1月25日以降の振込	一般 5,000 円 学生 3,000 円
当日参加申込の場合	一般 5,000 円 学生 3,000 円
追加発表要旨集	1 部 1,000 円

懇親会参加費：

1月24日までの振込	一般 6,000 円 学生 4,000 円
1月25日以降の振込	一般 7,000 円 学生 5,000 円
当日参加申込の場合	一般 7,000 円 学生 5,000 円
3月21～23日昼食弁当	各日 600 円

弁当は予約制です。参加申込の際に一緒にお申込ください。振込用紙通信欄の必要の日をマークしてください。

熊本でお待ちしています！



## [昼食]

大会期間は土日祝日ですが、学内の北キャンパスにある生協食堂（学生会館）が縮小営業しています（営業時間 11:30～14:30）。大学周辺のコンビニエンスストアや飲食店は数が限られていますので、お弁当を準備します。予約個数のみを用意しますので、参加申込時にあわせてお申込ください。

## [公開シンポジウム]

日時：3月23日（日）午後

阿蘇の草原植物の現状や草原再生、歴史に関するシンポジウムを予定しています。詳細は大会ホームページ等でお知らせします。参加は無料です。

## 日本植物分類学会第 13 回大会「発表・参加申込書」

必要事項を記入または選択の上、ファイル名を申込者氏名にして  
sanka2014kuma@e-jsps.com宛に送付

1. 名前（ふりがな、またはローマ字）：
2. 所属：
3. 所属の短縮表記：
4. 連絡先住所：〒
5. Tel & Fax:
6. E-mail アドレス：
7. 研究発表 する：(1) 口頭発表 (2) ポスター発表  
 しない：(3) 発表しない (4) 共同研究者が発表する(発表者氏名 )
8. 口頭発表賞・ポスター発表賞へのエントリー (1) する (2) しない
9. 発表タイトル：
10. 全発表者氏名・所属（演者の右肩に\*印）：
11. 全発表者氏名のローマ字表記：
12. 現在求職中の表示の希望 (1) 希望する (2) 希望しない
13. 会場でのネットワーク利用 (1) 希望する (2) 希望しない
14. 大会参加費（振込期日に注意すること）： 円  
 1月24日までに振込の場合、4,000円（一般）2,000円（学生）  
 1月25日以降振込と当日申込の場合、5,000円（一般）3,000円（学生）
15. 懇親会 (1) 参加する (2) 参加しない
16. 懇親会費（振込期日に注意すること）： 円  
 1月24日までに振込の場合、6,000円（一般）4,000円（学生）  
 1月25日以降振込と当日申込の場合、7,000円（一般）5,000円（学生）
17. 昼食弁当代（各日600円）：小計 円  
 (1) 3月21日（金）(2) 3月22日（土）(3) 3月23日（日）
18. 14, 16, 17の合計金額： 円
19. 振込郵便局名： 郵便局
20. 振込日： 月 日  
 郵便振替口座番号：01700-0-126839  
 口座名義：日本植物分類学会第13回大会準備委員会

### 会費納入の季節です！

- ・会費は前納制です。（金額、振込先は最後のページをご覧ください）
- ・来年度（2014年1～12月）の会費は2013年12月末までに納付しなければなりません。
- ・同封された郵便振替用紙をご利用ください。その際、**大会参加費と年会費の郵便振替用紙を取り違えないようご注意ください**（全く別の口座です）。
- ・本号封筒の宛名ラベルに「自動引落」と表示されている方は、振替で納付する必要はありません。
- ・適正な学会運営のために、皆様のご協力をよろしくお願いします。
- ・なお、長期滞納者に対しては、規約第10条（2）に基づき、除名を行っております。
- ・ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

『国際藻類・菌類・植物命名規約(メルボルン規約) 2011[日本語版]』  
について——

国際植物命名規約邦訳委員会

国際植物命名規約邦訳委員会は、植物の学名に関する国際的な取り決めである「国際藻類・菌類・植物命名規約」の最新版 *International Code of Nomenclature for algae, fungi, and plants (Melbourne Code) 2011* (McNeill et al. 2012 [eds.]) (以下メルボルン規約) の日本語版の出版を準備中です。

ご存知の通り、植物の命名法に関する国際規約はほぼ6年ごとに改訂され、規約は過去に遡って適用されるため、学名の取扱いは常に最新の規約に従う必要があります。すでに報告されているように、今回の改訂ではたくさんの重要な変更がなされました。規約の名称自体が変更されたほか、重要なものでは、新学名の有効発表の条件に電子出版をみとめ、その形式を決定したこと。非化石生物の新たな分類群の記載文や判別文のためにラテン語に代えて英語の使用も選択可能としたこと。菌類の新名の正式発表のために前提条件として登録を必要としたこと。多型的生活史をもつ菌類の別名に関する条項を廃止したこと。化石の命名法において形態分類群の概念を放棄したことがあげられます。また、正式発表にかかわる第32条から第45条は大幅に修正され、それに加えてこれまでの版とは全体の構成、規約の文言、条文の番号付けが大きく変更されています。そのため、メルボルン規約では前回のウィーン規約との条文対応表が準備されているほどです。

邦訳委員会では日本語版の出版を2013年内に行うことを予定していました。しかし、規約の内容と表現が予想以上に変更されているため、日本語版の内容をさらに慎重に検討する必要があります。また、販売・発送の学会への負担を軽減するための方法についても考慮中です。そのため、出版の予定を2014年4月とし、詳細は次号のニューズレターでお伝えしたいと思います。

日本分類学会連合第13回シンポジウムのお知らせ——

日本分類学会連合担当委員 黒沢 高秀

今年度の日本分類学会連合シンポジウムについてお知らせします。テーマは多くの会員にとって重要と思われるABS問題で、その第一人者がスピーカに集まっています。ふるってご参加下さい。

(以下連合からのお知らせの転載)

日本分類学会連合第13回シンポジウム

「生物多様性条約と名古屋議定書が分類学研究分野へ与えるインパクト

～とくに国内措置について～

2010年に名古屋で生物多様性条約の第10回締約国会議が開催され、名古屋議定書が採択されました。生物多様性条約といえば、その名称通り、野生生物の保全のための環境条約であると考えておられる方が多いかも知れませんが、しかし、この条約は「生物遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な分配(ABS)」を目的とする経済条約でもあるのです。そして、名古屋議定書には、この利益の分配に実効性をもたせようという意図が読み取れ、外国の法令に従わずに海外から標本やサンプルを日本国内に持ち帰ると、日本国内の法律等によって処罰される可能性が出てきました。現在、環境省が「名古屋議定書に係わる国内措置のあり方検討会」を設置し、意見をとりまとめようとしています。

本連合に加盟の各団体には、海外に調査や標本採集によく行っておられる会員の方が少ないと思います。その一方で、ABS 問題とは何なのか、名古屋議定書とは何なのかは、あまりご存じない方が多いのではないかと拝察します。しかし、これらをよく理解していないと、処罰されて研究ができなくなってしまう可能性さえあるのです。

そこで、分類学者にとっての生物多様性条約、ABS 問題、名古屋議定書などの理解を深め、日本の国内措置が分類学者に求める対応を、法律や ABS 問題の専門家もまじえて議論するために下記のシンポジウムを企画いたしました。ぜひ多数のご参加をお待ち申し上げます。

日時：2014 年 1 月 11 日（土）13:00 ～ 17:30

会場：国立科学博物館（上野本館）講堂

入場無料

### プログラム

13:00-13:45 分類学分野の研究者にとっての ABS 問題とはどのようなものか

村上 哲明（首都大学東京）

13:45-14:30 研究拠点としての植物標本室と海外でのフィールド調査

邑田 仁（東京大学）

14:30-15:15 名古屋議定書で、変わる事、変わらないこと

磯崎 博司（上智大学）

15:30-16:15 名古屋議定書と分類学：その問題点と解決案

安藤 勝彦（製品評価技術基盤機構）

16:15-17:00 国内措置の検討状況と今後の課題

炭田 精造（バイオインダストリー協会）

17:00-17:30 想定問題に基づく Q&A

世話役・司会：奥田 徹（玉川大学学術研究所）・村上 哲明（首都大学東京）

## 寄稿

### 学名のラテン語 (14)

永益 英敏（京都大学総合博物館）

#### 種と種内分類群の学名の形容語—形容詞の最上級

形容詞の最上級もまた学名の形容語として使用することができる。

最上級のつくり方も規則的で、基本的には第一第二変化形容詞、第三変化形容詞のどちらの場合でも、語幹に -issimus, -a, -um をつけることでつくられる。この語尾の形からわかるように、形容詞の最上級は第一第二変化形容詞型の語尾変化をする。発音したい方のためにアクセントに言及しておく、-issimus は後ろから 2 つ目の音節 (paenultima という。この ultima も最上級で、ultima だけなら最後の音節を意味する。) が短い (開音節で母音が短い) ため、最上級のアクセントは後ろから 3 つ目の音節 (antepaenultima という) に置かれる。fortissimus (最も強い) はフォルティッシムスでありフォルティシムスではない。

[第一第二変化形容詞の例]

長い：longus, a, um (原級), longior, ius (比較級), **longissimus, a, um** (最上級) *Mimosa*

**longissima** Nois. ex Steud.

[第三変化形容詞の例]

短い : *brevis*, e (原級), *brevior*, ius (比較級), ***brevissimus*, a, um** (最上級) *Blastus brevis* C.Chen

ところで、第一第二変化形容詞にも第三変化形容詞にも男性・単数形が -er で終わるものがあつたことを御記憶であろうか？ 前者には -er, ra, rum 型と -er, era, erum 型があり、後者には -er, ris, re 型と -er, eris, ere 型がある (永益 2012a, b)。このように男性・単数形が -er で終わる形容詞は男性・単数形の語尾に -imus, -a, -um をつけて最上級をつくる。r が2つ重なることに注意してほしい。

無毛の : *glaber*, ra, rum (原級), *glabrior*, ius (比較級), ***glaberrimus*, a, um** (最上級)

鋭い : *acer*, ris, re (原級), *acrior*, ius (比較級), ***acerrimus*, a, um** (最上級)

[例] *Filipendula glaberrima* Nakai, *Ribes acerrimum* Rochel ex Schult.

さらに第三変化形容詞で男性・単数形が -ilis で終わるものは、その部分を -illimus と変更することで最上級が作られる。こちらは l が2つ重なる。

繊細な : *gracilis*, e (原級), *gracilior*, ius (比較級), ***gracillimus*, a, um** (最上級)

[例] *Dioscorea gracillima* Miq.

以下の、日常的によく使われたラテン語の形容詞は特別な形の最上級をもつ。特に、*maximus* (最大の), *minimus* (最小の) は学名の形容語としてはおなじみのものである。原級から規則的につくられない最上級の場合、辞書にはたとえば ***maximus*, a, um, adj. superl. [magnus]**, のように表示され、*maximus* が *magnus* の最上級 (*superlativum*) の形容詞 (*adjectivum*) であり、第一第二変化形容詞型の語尾変化をすることがわかるようになっている。

よい : *bonus*, a, um (原級), *melior*, ius (比較級), ***optimus*, a, um** (最上級)

悪い : *malus*, a, um (原級), *pejor*, *pejus* (比較級), ***pessimus*, a, um** (最上級)

大きい : *magnus*, a, um (原級), *major*, *maius* (比較級), ***maximus*, a, um** (最上級)

小さい : *parvus*, a, um (原級), *minor*, *minus* (比較級), ***minimus*, a, um** (最上級)

[例] *Calamus optimus* Becc., *Spermacoce pessima* Harwood, *Sagina maxima* A.Gray, *Centipeda minima* (L.) A.Braun et Asch.

位置を示す比較級の比較級がしばしば対応する原級を欠いていることは前回述べた (永益 2013) が、これらの最上級もまた不規則につくられる。最上級のあとにその比較級を括弧に入れて示すと次のようなものがある。

最も劣った *deterimus* (*deterior*), 最も外側の *extremus* (*exterior*), 最低の *inifimus* または *imus* (*inferior*), 最高の *supremus* (*superior*), 最も遠い *ultima* (*ulterior*) など。

[例] *Solanum deterimum* C.V.Morton, *Thymus extremus* Klokov, *Senecio inifimus* Cabrera, *Ilex suprema* Cuatrec, *Salix ultima* Koidz.

前回、比較級で語尾を変化させずに副詞 *magis* (英語の *more* にあたる) をつけて *magis dubius* (より疑わしい) のように表現することがあることを紹介した (永益 2013)。最上級の場合も同様で、-ius, -eus, -uus で終わる形容詞は副詞 *maxime* (英語の *most* にあたる) を前につけて *maxime dubius* (最も疑わしい) のように表現する。IPNI (<http://www.ipni.org/>) で検索す

る限り、この形式でつくられた形容語も見当たらないようである。

永益英敏. 2012a. 学名のラテン語 (10) 種と種内分類群の形容語—形容詞 1. 日本植物分類学会ニュースレター 45: 17 — 18.

永益英敏. 2012b. 学名のラテン語 (11) 種と種内分類群の形容語—形容詞 2. 日本植物分類学会ニュースレター 46: 6 — 7.

永益英敏. 2013. 学名のラテン語 (13) 種と種内分類群の形容語—形容詞の比較級. 日本植物分類学会ニュースレター 50: 7 — 9.

## 植物研究会・同好会紹介

### 「日本変形菌研究会」

桃原 和広 (日本変形菌研究会 ホームページ担当幹事)

日本変形菌研究会は変形菌に興味を寄せる人々が交流、研究することを目的に 1977 年に発足しました。会員は現在約 200 名で日本全国に広がっています。

会の主な活動は観察会 (年 3 回開催)、研究会 (年 1 回開催)、会報「変形菌」(年 1 回発行) です。観察会の 2 回 (春と秋) は関東地区を中心とした日帰りの観察会です。残り 1 回は 3 泊 4 日の夏季合宿調査会で、生物顕微鏡や実体顕微鏡、及び図鑑類を持ち込み、採集標本の勉強会や講演会も行っています。研究会 (大会) は大阪と東京で隔年で開催され、パネル研究発表会、公開講演会が行われます。最近はこれらの活動の他に、雪解けのときに見られる好雪性変形菌の観察会 (5 月の連休頃) や標本の同定を行うオープンラボ (越前町立福井総合植物園、国立科学博物館) といった活動も行われております。

変形菌に関心のある方は年齢、学歴を問わずどなたでも入会出来るので、変形菌に興味がある小学生から普通の会社員まで多種多様な会員から成立っております。

web サイト:

日本変形菌研究会 Japanese Society of Myxomycetology

<http://www.henkeikin.org/>

年会費: 3,000 円 (学生 2,000 円)

入会方法:

メール ([info@henkeikin.org](mailto:info@henkeikin.org)) での  
問い合わせか、

下記事務局への問い合わせ

事務局:

〒916-0146

福井県丹生郡越前町朝日17-3-1

越前町立福井総合植物園内

日本変形菌研究会事務局 (事務局員: 松本 淳)

電話: 0778-34-1120 (毎週火曜日と年末年始は不通の場合があります)



## 編集室より

ニュースレター第 51 号をお届けします。今回は熊本大会の案内が中心になりますが、他にもいくつか重要な記事がありますので、どうぞじっくりとお読みください。特に来年度の会費は滞りなくお納めになりますよう、会計幹事に代わってお願い申し上げます。

連載 3 回目になりました「植物研究会・同好会紹介」は変形菌研究会に原稿を執筆いただきました。「変形菌は植物ではないのではないか」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、あまり硬いことは言わずに、植物周辺の生物を扱っている会を広くご紹介していければと思っています。そういえば、陸上植物を対象としている会は、名は違えど構成員がかなり共通していたりする傾向が最近はっきりしてきました。例えば、すげの会とシダの会と水草研究会の 3 会掛け持ちされている方、かなりたくさんいらっしゃるようです…。

(ニュースレター幹事 海老原 淳)

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 保坂 健太郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401

E-mail: khosaka@kahaku.go.jp

会 費： 一般会員 5,000 円, 学生会員 3,000 円,  
団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号： 00120-9-41247

加入者名： 日本植物分類学会

\*

\* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。

平成 25 (2013) 年 11 月 20 日印刷

平成 25 (2013) 年 11 月 25 日発行

編集兼 茨城県つくば市天久保 4-1-1  
発行人 国立科学博物館 植物研究部  
海老原 淳

発行所 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050  
新潟大学教育学部  
自然情報講座  
日本植物分類学会